

# 学生考案メニューで「三浦半島産」の魅力発信 昭和女子大学産学連携プロジェクト



昭和女子大学の学生が考案した三浦半島産大根・早春キャベツを使ったメニューが1月19日から25日までの期間、玉川高島屋S・C内「フーズシティ」6店舗で限定販売された。

本プロジェクトは三浦市農協、JAよこすか葉山、全農かながわ農産販売課と同大学が産学連携して取り組んでいる。栄養士や管理栄養士を目指す学生が野菜や農業の知識を深めながらレシピを考案し、三浦半島産野菜のPRおよび消費拡大喚起を目指す。

5年目を迎えた今年度はコロナ禍により試食会が例年通りの形では実施できなかったが、約半年間をかけ30名の学生がレシピを考案し、試行錯誤を繰り返した。プレゼンテーションされた60作のうち、8作が採用され、各採用店舗の改良を加えて販売に至った。

審査に携わった玉川高島屋S・Cを運営管理する東神開発株式会社の島康宏第2営業担当次長は「学生の皆さんの創造力と独創性が見ていて非常に興味深い。参加店舗からもたくさんの刺激を受けたと聞いている」とコメントする。

農産販売課は大根・キャベツをはじめとする野菜の消費低迷・価格安に対し、若年層にも興味を持ってもらえるような産学連携プロジェクトへの協力や、PRの機会創出に向け今後も取り組みを進めていく。



30名の学生がレシピを考案

## 採用メニュー 一覧

店名	メニュー名
アントニオ	洋風大根ステーキリゾット
妻家房	早春キャベツのチーズタッカルビ石焼ビビンバ
	青首大根のカクテキ
中華旬彩料理 東方紅	モツとキャベツの中華味噌炒め
	ゆず香る中華豚しゃぶ大根サラダ
ブツ デリカテッセン	キャベツとベーコンのミルフィーユズコット風
まつおか	ピリ辛ぶり大根
横浜中華街 王朝	三浦半島産早春キャベツを味わうための餃子

～採用メニュー考案 学生のコメント～  
生活科学部 管理栄養学科 小池和佳奈さん

◆キャベツとベーコンのミルフィーユ ズコット風

このレシピは「見た目」と「素材の味を生かす」ということを工夫しました。目を引くような見た目と素材の味を引き立てるシンプルな味付けが特徴です！

ベーコンそして三浦半島産早春キャベツの絶妙な味わいをぜひご賞味ください！

## 収穫体験にも行ってきました!

### 畑で大根の魅力を実感

昨年12月25日には同大学の学生と産地見学も実施した。あいにくの天気でキャベツ畑に入れず、大根のみとなったが、収穫作業を体験。引き抜いて土だらけで出てきた大根に「土の中で育っていることを身をもって学ぶことができた。知っているだけでは大違い」と初めての体験に喜びの声が上がった。



# 「やさいバス」へ初出荷 生産者と実需者をバスがつなぐ

中央ベジフルセンターは1月5日、運送手配・青果物卸事業者である「やさいバス」へ初めての出荷を行った。全農都府県本部として初めての取組みである。

「やさいバス」とは生産者拠点と実需者拠点をルートでつなぎ、巡回するという仕組みで、昨年、全農の新規事業提案制度「Zenovation」でコラボレーション事業構想が最優秀賞を受賞。現在はJAグループのオープンイノベーションラボであるAgventure Labのスタートアップ支援も受けている。

出荷したのはミニトマト、みかん、キウイ、レモンの4種類。拠点を設置している県内小売店に運ばれた。

今後はやさいバスを通じた新規顧客開拓および直売所の活性化に向けた取り組みを検討する方針だ。



出荷作業を行う中央ベジフルセンター職員（左）

# 三浦市産青首大根フードバンクに寄贈 物流が難しい野菜の需要高く 喜びの声あがる

三浦市農協と全農かながわは12月14日、横浜市にある公益社団法人フードバンクかながわに三浦市産青首大根を320本寄贈した。コロナ禍で増えている、食料品を必要とする世帯の支援に貢献したものの。

同法人では基本的には常温での保存が可能な加工食品や米の寄贈を受け付けているが、一昨年よりJAからの新鮮な野菜の寄贈を受け付けるようになった（別途物流面の条件を満たす必要がある）。

寄贈した大根は子ども食堂が運営するフードパントリー、ひとり親家庭の支援団体等に提供された。フードバンクかながわ藤田誠事務局長は「野菜は子ども食堂・子ども支援団体やひとり親家庭だけでなく、大学生からの要望が非常に多い。要望に対し物流面での寄

贈ハードルが高く、ニーズを満たしきれていない。寄贈いただいた大根もあつという間に提供先が決まった。団体からは感謝の声をいただいている」と話す。



三浦市産青首大根を受け取る藤田事務局長（左から2番目）

## 今月のPickup!

### 県育成のイチゴ新品種「かなこまち」

- ・県オリジナル品種として12月24日にお披露目された。糖度が高く、酸味とのバランスがよい、大粒の品種。
- ・名前の由来は「神奈川県生まれの美しくおいしいイチゴ」という想いから。
- ・県いちご組合連合会の会員53名が、全農かながわから親株を購入し栽培を開始した。少量ながら、「夢未市」「海老名グリーンセンター」などに出荷されている。



提供：JANAかながわ西湘、神奈川県